平成２０年　５月３０日

病害虫情報 Ｎｏ．４

茨城県病害虫防除所

トマト黄化葉巻病の感染拡大を防止しましょう

［現在の状況］

①促成栽培において４月に発病株を確認している。

②本病はタバココナジラミ類により媒介される。本病ウイルスを保毒したタバココナジラミ類は，冬期は促成栽培のハウス内で生息していたが，気温の上昇により，５月以降は野外でも増殖できる状態である。

③抑制栽培は育苗期になることから，苗への感染が懸念される。

④ハウス以外にも露地にトマトが植え付けされており，発病が懸念される。また発病した場合は，施設抑制トマトへの感染源となる可能性が高い。

［防除対策］

【促成栽培】**タバココナジラミ類を野外に出さない**

①タバココナジラミ類の防除を徹底する。栽培期間中の発生量が多いと，野外へ飛び出すタバココナジラミ類も多くなるので，栽培終期までに防除を行う。なお，薬剤散布にあたっては，薬剤抵抗性の発達を抑えるため同一系統薬剤の連続散布は行わない（表１，２）。

②栽培終了時には，ハウスの蒸しこみを行い，タバココナジラミ類を確実に死滅させ，野外に出さないようにする。なお蒸しこみ作業は，トマトの株元を切断するか抜き取る等の処理を行ってハウスを密閉し，ハウス内温度が 40℃を超える期間が５日以上となることを目安にする。

【抑制栽培】**苗の感染を防止し，育苗時か定植時に粒剤を施用する**

①育苗期の感染は被害が甚大となるので，育苗ハウス出入口の防虫ネットは二重にするなど，タバココナジラミ類の侵入防止を徹底する。

②育苗時にタバココナジラミ類が見られたら，防除を徹底する。

③粒剤施用による防除を育苗時か定植時に行う。

【促成・抑制共通】

①ハウスの開口部に防虫ネット（0.4mm 目合い以下）を設置し，タバココナジラミ類のハウス内外への移動を防止する。なお 0.4mm 目合いの防虫ネットを設置した場合，通気性の低下により，病害の発生が助長されたり，ハウス内の温度が高くなることが予想されるので，ダクト通風やサイドの開閉，遮光資材の利用等を行い，適正な温湿度管理に努める。

②タバココナジラミ類は葉裏に寄生するため，薬液は下方から吹き上げるように散布する等，葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

③雑草はタバココナジラミ類の生息場所となるため，ハウス内外の除草を徹底する。

④発病が認められた株は，感染源となるため早期に抜き取り，ビニール袋等に入れて密封し，株を腐らせてから処分する。

表１　タバココナジラミ類に対して有効とされる主な薬剤（平成 20 年 5 月 14 日現在）

薬剤名	有効成分名（系統名）	コナジラミ類に対する登録の有無	
		トマト	ミニトマト
ベストガード粒剤	ニテンピラム（ネオニコチノイド系）	○	○
ベストガード水溶剤			
アルバリン粒剤	ジノテフラン（ネオニコチノイド系）	○	○
アルバリン顆粒水溶剤			
スタークル粒剤		○	○
スタークル顆粒水溶剤			
サンマイトフロアブル	ピリダベン	○	○
コロマイト乳剤	ミルベメクチン	○	○

※農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用基準を守り，周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して下さい。

※ベストガード粒剤・水溶剤，アルバリン／スタークル粒剤・顆粒水溶剤は同一系統の薬剤である。

表２　タバココナジラミ類に対して有効とされる主な生物農薬または物理的な作用による薬剤

（平成 20 年 5 月 14 日現在）

薬剤名	有効成分名	コナジラミ類またはタバココナジラミ類に対する登録の有無	
		トマト	ミニトマト
ボタニガード ES	ボーベリア　バシアーナ	○	○
オレート液剤	オレイン酸ナトリウム	○	
粘着くん液剤	ヒドロキシプロピルデンプン	○	

※農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用基準を守り，周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。